

# 1 どんなときにアミラーゼが高くなりますか？

アミラーゼは食物（糖質）の消化を助ける酵素です。S（唾液）型とP（膵）型の2種類があって、いずれも消化管に分泌されます。S型は咀嚼の際に唾液に含まれて、P型は食物が胃から十二指腸へと送られる際に腸液に含まれて、それぞれ流れ出てきます。消化と関係なく、これらが血液中に漏れ出ると血清アミラーゼ（S型とP型の総和）は高くなります。たとえば唾液腺や膵臓の組織が壊れるような場合で、耳下腺炎（おたふくかぜ等）、唾石症（唾液排出管の詰まり）、膵炎、膵癌などでみられます。口の周りを何かにぶつけたり、胃カメラをした翌日にS型が一時的に上昇することもあります。またS型は、唾液腺以外の臓器にもわずかに存在し、肺癌、卵巣癌などで高くなることもあります。

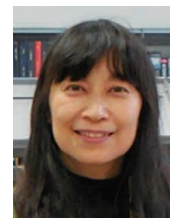
アミラーゼの高値となる原因が特定できない場合には、S型とP型を鑑別する血液検査を行い、さらにエコーやCTなどの精密検査を進めて、確定診断を行っていきます。

## 検査のはなし vol.11

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること ⑫

# 「血清アミラーゼが高いと言われました」



日本臨床検査専門医会  
松野 容子

## 2 健康な人でも高くなりますか？

病気ではなく、体質として血清アミラーゼが高い場合もあります。アミラーゼは小さな酵素で、健康な人でもわずかに血液中に漏れ出て、腎臓を経て尿に出てきます。ほとんど唯一の、「尿で測定される酵素」であることもアミラーゼの特徴です。ここで体質というのは、マクロアミラーゼ（大きなアミラーゼ）が出現する場合で、抗体など別の成分がアミラーゼに結合して大きなサイズとなり、血液中に滞って見かけ上、高い値となります。人口1000人あたり1人の割合（約0.1%）で起こるといわれています。炎症や癌などの異常な所見がない場合には、血液に比べて尿中のアミラーゼが低いことや、電気泳動でサイズを確認することで、マクロアミラーゼを判定できます。

## 3 体質と診断されたら大丈夫ですか？

マクロアミラーゼの場合でも、病気を発症すればさらにアミラーゼは高値となります。普段、アミラーゼが高いからといって放置すれば、逆に病気の診断の遅れにつながることも考えられます。そうした見落としを回避するには、健診などで得られた検査結果を、いつも手元に保管しておくことをお勧めします。医師に相談する場合にも、アミラーゼ値の推移を追うのに役立ちます。検査データはその場限りのものではなく、たとえ異常がなくとも、後々の貴重な情報源となり得ることを覚えておきましょう。

